

2021年度 事業計画

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

伝統のかおり 高き学園を目指して

学校法人 修道学園

2021年度 学校法人修道学園事業計画

＜法人本部＞

主要項目	具体策	所管部局	実施月
1 法人運営の充実	(1)法人としてのガバナンス体制等の強化 ・法人本部組織体制等の整備、充実 ・感染症対応等を含めたBCP(事業継続計画)の策定 ・危機管理体制等の点検、整備	法人事務局	年間
	(2)積極的な情報発信、情報公開の推進 ・各種メディアを活用した積極的な情報発信 ・インターネット等の活用による情報公開 ・関係法令に基づく諸資料の公表、公開	法人事務局	年間
	(3)三様監査の充実 ・監査法人との緻密な連携	法人事務局	年間
	(4)設置学校に係る関係所轄庁等への対応 ・大学の学科改組等による新学科開設の準備対応 ・学則改正等関係所轄庁等への諸手続き	法人事務局	年間
	(5)人事、給与等処遇に係る基本的事項の整備 ・中高部、協創中高部の定年制実施等の具体策の策定 ・「働き方改革」に向けた処遇改善の検討	法人事務局	年間
2 資産の運用	(1)既定の基本方針、運用計画等に基づく資金運用の継続 (資産分散したポートフォリオの継続形成) (2)法人として統合した資産運用の検討(資金運用委員会)	法人財務課	年間
3 施設の整備	(1)大学部一体育館の建替計画等の策定 (2)中高部一本館の建替事業等の着手 (施行業者の決定に伴う事業計画の策定)	法人財務課	年間
4 その他	(1)学園創始300年に向けて ・学園史編纂の着手と諸事業の準備 (2)恒常的な寄付金の募集	法人事務局	年間

2021年度 学校法人修道学園事業計画(案)

< 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具 体 策	所管 部局	実施月
I. 教育と学生支援の充実				
1.教育の充実と 質保証	1) 教学マネジメントの検討 推進	①教学マネジメント体制整備のもと、「教学マネジメント指針」に則った、本学における取り組み内容、計画について整備し、優先順位を決めて取り組む。	教学C 各学部 学長室	通年 通年
	2) 次期カリキュラムの検討 推進	①第3期認証評価の改善課題を踏まえ、2023年度の新カリキュラムに向けて、学部、学科、グループ、関係部局等と調整を図りながら整備を進める。	教学C 各学部	通年
	3) アセスメントプランの策定	①2022年度の大学基準協会への報告を念頭に、アセスメントプランに関する認識を学内で共有する。特に学生の4年間における成果の把握・評価を策定する。	教学C 各学部	通年
	4) 学習支援体制の整備	①2023年度新カリキュラムに向けて、修道スタンダード科目における「修大基礎講座」のあり方について検討し、方針および内容について策定する。	学習支援C	通年
	5) ICT教育の整備	①2023年度新カリキュラムに向けて、修道スタンダード科目等の情報教育のあり方と内容について検討し、方針および内容(使用する教材やツール等を含む)について策定する。	情報C	通年
	6) リカレント教育の検討	①リカレント教育に関する全学的な取組の方向性を検討する。 ②オープンアカデミーの充実化と将来展開について検討し、リカレント教育導入に向けた課題を抽出する。	学長室 ひろみらC	通年 通年
	7) 文部科学省ACへの対応	①国際コミュニティ学部(設置4年目)への対応・報告をする。	国際コミュニティ 学部 教学C 学長室他	5月
	8) 新設学部等の円滑な運 営	①国際コミュニティ学部の円滑な運営・科目開設を図る。 ②学部完成年度以降の教育組織(教員採用等)のあり方について検討し、整備を図る。	国際コミュニティ 学部 健康科学部 教学C 総務部 学長室他	通年 通年
2.キャリア教育の 充実	1) 全学的キャリア教育・学 生支援体制の構築	①全学的キャリア教育と学生支援体制のあり方を検討する。 ②2023年度新カリキュラムに向けて、修道スタンダード科目におけるキャリア教育について検証、検討し、方針および内容について策定する。	キャリアAC 教学C	通年 通年
	2) インターシップ体制の整 備	①インターシップ体制のあり方について検討し、整備する。	教学C キャリアC	通年
3.グローバル教育の 充実	1) 海外派遣支援制度の見 直し	①学生の海外派遣制度における財政支援制度を検討、構築する。 ②交換留学の派遣先の派遣条件(留学資格要件等)や待遇(宿泊費免除等)に関する検討、交渉し、改善する。	国際C	2月 12月
	2) 海外派遣プログラムの見 直し	①2023年度開始の新制度による学生の海外派遣制度を検討、構築する。 ②オンライン留学プログラム(単位化も含めて)を検討、構築し、実施する。 ③交流の中心となっている協定校の関係の強化および、過去における無交流協定校と交流協定のあり方について検討する。 ④全初修外国語(特にフランス語・スペイン語)による短期海外セミナーの新規開発の検討および原案を作成する。	国際C	2月 2月 10月 10月
4.学生生活支援	1) 課外活動等の活性化支 援	①課外活動支援について、制度の内容及び導入を検討し、策定する。 ②UNIVAS実施事業を検討・推進する。	学生C	通年 通年
	2) 奨学金制度の見直し	①大学における給付奨学金制度について検討し、見直しを行う。	学生C	10月
	3) 就職支援体制の強化	①withコロナ、afterコロナ時代への対応も含め、企業の採用手法等、動向の変容に対応した、支援の検討並びに展開を行う。	キャリアC	通年
5.新型コロナウイルス 感染対策	1) 授業方法変更への対応	①学生の学修環境を整備する。 ②教員の授業実施環境を整備する。	学長室 教学C 情報C 総務部 財務部	通年 通年
	2) 感染拡大防止	①学生・教職員の感染防止策を徹底した学事等のあり方見直し(検討)。 ②授業、職場等、学内の環境見直しと衛生管理を強化する。	学長室 総務部 財務部 教学C 学生C	通年 通年
II. 研究活動の推進				
1.研究活動推進・ 支援	1) 研究活動推進・支援	①文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」の改正への対応を行う。	ひろみらC	3月

2021年度 学校法人修道学園事業計画(案)

< 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具 体 策	所管 部局	実施月
III.地域連携・地域貢献				
1.地域連携・地域 貢献の推進	1)地域連携・地域貢献の推進	①「ひろみらシンクタンク」について体制を整備し、実施を推進する。 ②「ひろみら地域協創スタジオ」の実施、推進による連携協定先との連携強化を図る。	ひろみらC	3月 3月
	2)スポーツ・文化活動を通じた地域貢献の推進	①連携協力協定を活かした地域連携体制および実施事業計画を検討、実施する。	学生C	通年
IV.入試制度の整備と志願者の獲得				
1.入試制度の改革	1)入試制度改革	①入試制度検討ワーキンググループの検討結果を踏まえ、入試制度を検証し、見直し案を策定する。	入学C	3月
2.志願者の獲得	1)各種イベントの実施	①オープンキャンパスなどのイベントの開催について、Web等の利用も視野に入れた開催手段と内容を検討、実施する。	入学C	12月
	2)情報発信力の強化	①高校生、保護者に有益な情報を発信するため、入試情報サイト、LINE@、Web広告などの充実を図る。	入学C	12月
V.大学組織・運営の強化				
1.組織改革・改善	1)学部・学科改組	①新学科設置に向け、届出、設置認可(設置趣意書の作成、カリキュラムの策定等)対応を進める。 ②収容定員増の申請対応を進める。	学長室 人文学部 教学C 総務部 財務部	通年 通年
	2)大学院改革の検討	①大学院のあり方について検討する。	各研究科 教学C 学長室	通年
	3)事務システム・業務の改善	①業務データ及び情報システムの一元化検討と計画を策定する。 ②業務情報システムにおけるクラウドサービス利用についての検討及びガイドラインを作成する。 ③各部局における申請業務等の電子化への対応を検討する。	情報C 学長室 各部局 総務部	通年 通年 通年
	4)新教学システムの導入	①2022年4月の新教学システムの稼働に向けて、導入計画に従って実施する。	教学C	通年
	5)旅費の見直し	①旅費規程の見直し、旅費システムを導入する。	総務部	3月
	6)教員DBシステムの見直し	①教員DBにおける公開・非公開情報のありかたを検討し、Researchmapの活用を含めシステムの見直しを図る。	総務部 ひろみらC	通年
	7)機関リポジトリ管理体制の整備	①学術機関リポジトリデータベース(IRDB)変更スケジュールに沿った移行準備およびデータの見直しを実施する。 ②業務継承のため、業務を標準化する。	図書館	5月 3月
	8)図書館運営体制の見直し	①学外者利用ルールの見直しおよび規程改正を検討する。 ②館内施設および設備の改修を検討する。	図書館	9月 3月
	9)新給与制度の検証	①新給与制度の運用および検証を行う。	総務部	3月
	10)人事制度の見直し	①専門業務型裁量労働制を検討、導入する。	総務部	3月
2.設備・財政基盤 の強化	1)新体育館の建設	①ワーキング・グループを設置し、基本計画を策定する。 ②設計・監理業者を決定する。 ③地盤調査、測量等を実施し、基本設計に入る。	財務部	8月 11月 3月
	2)校舎等建替計画の見直し	①1,2号館の老朽化に伴い、校舎等建替計画(2017年策定)の見直しに着手する。	財務部	通年
	3)寄附金制度の充実	①寄附金事業の推進、強化を図る。 ②「修道学園創始300周年新体育館建設事業」の寄附金募集趣意書を作成し、募集を開始する。	総務部 財務部	3月 3月
	4)計画営繕事業の実施	①5号館屋上防水等の計画営繕工事を実施する。 ②中長期計画営繕事業の検証と見直しを行う。	財務部	通年 通年
	5)学内禁煙環境の整備	①学内禁煙計画とその指導、啓発等の対応計画を作成し、実施する。	学生C	通年
VI.危機管理・広報の強化				
1.危機管理の強化	1)BCPの策定	①BCP検討チーム会議にて検討し、BCPを策定する。 ②策定したBCPに基づき、必要予算を要求する。	財務部 学長室	9月 10月
	2)危機管理体制の強化	①策定BCPに基づき、関連規程の策定、改正等、危機管理体制の強化を図る。	学長室	3月
	3)海外派遣等における危機管理の強化	①海外緊急対応に関する制度設計(マニュアル化等)の検討、制定する。	国際C	12月

2021年度 学校法人修道学園事業計画(案)

< 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具 体 策	所管 部局	実施月
2.産学官連携リ スクマネジメント	1)産学官連携リスクマネジ メント	①利益相反マネジメントについて検討、構築する。 ②技術流出防止マネジメントについて検討、構築する。 ③秘密情報管理体制について検討、構築する。	ひろみらC 総務部	3月 3月 3月
3.広報・広告の強 化	1)戦略的な広報展開	①WEBサイトの改修、移行を完了させ、今後の改善計画を立案・実施する。 ②情報収集・発信強化にむけ、全学的な広報体制を見直す。 ③マスコミ対応・連携の強化策について検討する。	学長室	通年 通年 通年
4.記念事業の実 施	1)人間環境学部20周年記 念事業の検討(2022年度)	①学部20周年事業計画を検討する。	人間環境学部	通年
VII.内部質保証				
1.内部質保証の 整備と強化	1)全学的内部質保証体制 の整備	①教学マネジメントを含めた全学的な内部質保証体制のあり方について整備する。 ②内部質保証システム(全学・学部・研究科)の検討および指針を作成する。	学長室 各学部 各研究科	3月 3月
	2)自己点検・評価体制の整 備	①自己点検・評価委員会について整備する。 ②本学PDCAサイクルの実質化を図る。	学長室	5月 3月
	3)IRの推進	①学習動向、各種大学プログラムの分析・報告を行う。 ②IR事業を推進する(大学基礎数値、教育成果指標等の整理・検討)。	学長室 教学C他	通年 通年
	4)認証評価結果への対応	①認証評価指摘事項(改善課題)への対応および、報告書の作成に入る。	学長室 各学部 各研究科 教学C	3月

2021年度 中高部 事業計画

【教員の部】

主要項目	具体策	所管部署	実施月
I. 学力の向上	1. 大学進学実績の向上 ①大学入試改革を見据え、進学実績向上のために必要な学力を向上させるために、各教科の授業改善、教員間の連携等について関係部署と協議しながら推進する。	中高両教頭・教頭補佐	通年
	②数値目標の達成に必要な各部署の課題を明確化し、定期的にその解決の状況を確認する。	中高両教頭・教頭補佐	通年
	③東大20名以上合格を数値目標とすることが修道教育に実効性を持つよう、志望者の増加に向け、生徒に対する進学指導、模擬試験対策、進学情報提供を強化する。また、生徒に対する早期からの働きかけを更に進める。	進路部・教務部	通年
I. 学力の向上	2. 学力観の見直し ①「探究」を各部、各教科学年と協力し、カリキュラム化に向けて取り組む。	教務部	通年
	②2022年度からの高校新カリキュラムと2025年度以降の大学入試との関連性について調査研究を行う。	教務部	通年
	③新しい学びを推進するための研究を引き続き行い、生徒ひとり一台、一接続の運用に注力し、思考力、判断力、表現力など、生徒の非認知的能力を伸張させる取り組みを行う。	中学教頭・教務部	通年
	④修道ベーシック・ルーブリックを教育活動の目標とし、教職員、生徒、保護者への周知徹底をはかる。また、新学習指導要領の観点別評価に反映させるための教科別ルーブリックを2022年度内に完成させる。	中学教頭・教務部	通年
I. 学力の向上	3. 学習意欲の向上 ①1・2年のセミナー合宿を実施する。	進路部・担当学年	8月
	②4年の東大見学ツアーを実施する。	進路部・担当学年	8月
	③5年の東大・京大セミナーを実施する。	進路部・担当学年	8月
	④中級からの成績優秀者を顕彰する。	進路部・担当学年	8月
	⑤6年のコース別クラス編成の実効性を検証し、発展的な姿を検討する。	進路部・教務部・担当学年	通年
	II. 国際理解教育の充実	1. 関連行事の実施 ①フューチャー・リーダーズ・プログラムを実施する。	育成部・高校教頭

	<p>②フューチャー・リーダーズ・プログラムの全校的な取り組みを構造化し、全校で取り組むための具体的なシステムを検討する。</p> <p>③修道ベーシック・ルーブリックを取り入れたフューチャー・リーダーズ・プログラムのカリキュラムに改変・実施することで、フューチャー・リーダーズ・プログラムを全校的な取り組みとして位置づける。</p>	<p>育成部・高校教頭</p> <p>育成部・高校教頭</p>	<p>通年</p> <p>通年</p>
III. 倫理観の向上	<p>1. 規範意識や倫理観の育成</p> <p>①修道ベーシック・ルーブリックの「価値観」をもとに生徒が持つべき規範意識や倫理観を明確にする。</p> <p>②遅刻指導、ICT 機器の利用におけるリテラシー指導を通して「自己の信念を貫き通そうとする姿勢」の向上を養う。</p> <p>③交通安全に対する意識の向上、公共交通機関利用時や自転車乗車時のマナーの向上を通して「自分の言動を客観的に見ようとする姿勢」を養う。</p> <p>④体育祭などの学校行事や宿泊行事を、十分なコロナ感染防止対策のもと、安全に実施できるよう検討し、柔軟な姿勢で準備を整える。</p>	<p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
	<p>2. 自治向上の精神の育成</p> <p>①修道ベーシック・ルーブリックをもとに、生徒の主体性を重視した生徒会活動や班活動を通して、「協働性」「向上心」を育み、何事も自分で切り開いていく「開拓者」精神を養う。</p>	<p>生徒部・高校教頭・教頭補佐</p>	<p>通年</p>
IV. 教育力の向上	<p>1. 人事考課の実施</p> <p>①校長面談において確認された各教員の単年度目標の機能的展開が可能となるように「個人事業計画書」を吟味し、その計画の実現に向けて、適宜現場での人事配置、業務改善を図る。</p> <p>②人事考課が公正に行われるよう、授業観察、教員へのヒアリング等を通して多角的なデータの収集を図る。</p>	<p>中高両教頭・教頭補佐</p> <p>高校教頭</p>	<p>通年</p> <p>通年</p>
	<p>2. 教員研修の充実</p> <p>①業務・授業の効率化と、学びの深さや幅をひろげ、学力の定着を目指し、すでに導入したアプリや機器の基本的な機能を確実に使えるよう、部長・学年主任・教科主任＋希望者を対象とし、ICT キャッチアップ研修を行う。</p>	<p>中高両教頭・教務部</p>	<p>通年</p>

	<p>②就任3年目までの教員・教科主任・教科からさらに1人＋希望者を対象とし、年間10回を目処に「改訂版タキソノミーテーブル」をもとにした授業デザイン研修を行い、研究授業発表会でその成果を発表する。</p> <p>③革新的且つ生徒の学習意欲を喚起する授業デザインを行い、効果的な授業は校内ネットワークで紹介し、教員の授業研修に利用する。また、課題のある授業に関しては、動画によりその課題を探求し、校長が直接当該教員と課題解決のための協議を行う。</p> <p>④大学入試研修をおこない、激変する大学入試情報を共有し、よりよい進路指導を目指す。</p>	<p>中学教頭</p> <p>中高両教頭・教頭補佐</p> <p>高校教頭・進路部長</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
V. 生徒募集の充実	<p>1. 広報活動の工夫</p> <p>①スローガンではなく、教育活動の結果を示すスタイルで外部広報活動の充実をはかる。</p> <p>②修道の真価が伝わっていない地域を重点地区とし、外部広報活動を展開する。</p> <p>③修道ベーシック・ループリックの生徒による自己評価を集計し、その結果から導き出される修道生としてのスキルや価値観の高さを外部広報活動、内部広報活動に活かす。</p> <p>④本校の教育に対する保護者の理解とロイヤリティを高めるために、1年から4年までの保護者を対象として学年別校長講演会を実施する。</p>	<p>中学教頭・広報室</p> <p>中学教頭・広報室</p> <p>中学教頭・広報室</p> <p>担当学年</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
VI. 修学支援	<p>1. 修学支援</p> <p>①新型コロナウイルスにより家計状況が急変した家庭の修学を支援するため、修道中学校修道高等学校奨学生の特別募集を実施する。</p>	<p>教頭補佐</p>	<p>5～7月</p>

【職員の部】

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I. 教員事務作業の点検と改革	教員の事務作業負担の軽減を目指し、事務室が受け持つことができる業務を洗い出し、検討を加える。	事務長 総務課	通年
II. 新本館建築に向けた実施設計の検討	新本館建築基本設計を受け、施行業者の選定と実施設計を進める。	財務課	通年
III. ICTを利用した授業改善の検討	ICTを利用した授業改善、また学級運営や生徒指導における「統一的なICTシステムの利用」の実現にむけて、施設整備・運用の面で教員サポート体制を強化する。	総務課	通年
IV. 寄付金制度の運用	同窓会・PTAとも連携を図り、新本館建築に向けての寄附募集を進める。（4年計画の初年度）	事務室	通年
V. 創始 300 年に向けて、記念事業の計画検討	引き続き、貴重書籍・収蔵品のデジタル化を進めるとともに、法人と連携を取りつつ、学園史の編纂と記念事業のあり方を検討する。	事務室	通年

2021年度 学校法人修道学園 事業計画
 (広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校)

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I 学力の向上			
1. 学力向上の取組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。 ②授業を大切にするため、切り替えが素早くできる授業規律を徹底する。 ③一日の学びのスタートは朝読書にあると位置づけ、それを生徒と共に実施する。 ④授業改善に向けた分析を行うため、生徒を対象としたアンケート調査を行う。	教務部、学年会 教務部、学年会 協創教育部、学年会 教務部、学年会	通年 通年 通年 通年
2. 探究型学力（主体的学び）を目指す授業づくりの促進	①「エミット学習」（描く・観る・問う）やICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、授業で取り入れる。 ②探究的な学びを促進する発問の仕方や課題の出し方について研究し実践する。 ③参加型授業の研究・実践を行う。	教務部 協創教育部 教務部 教務部	通年 通年 通年 通年
II 進路指導の強化			
1. 組織的な進路指導の取組み	①「進路シラバス」の作成とそれに基づく取組みを充実させていく。 ②広修大附属校推薦・総合型選抜・学校推薦型選抜対策案を企画・立案し、実施する。 ③進路希望に応じた効果的な補習体制を構築する。 ④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。	進路指導部 学年会 進路指導部 進路指導部 進路指導部	4月～11月 4月～1月 通年 通年
III 自立（自律）心の育成			
1. 規範意識や倫理観の育成	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」（身だしなみ・掃除・挨拶・時間）を合言葉にし、徹底を促す。 ②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」（高みを目指す）につながる取組みを実施する。 ③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。	生徒指導部 学年会 生徒指導部 学年会 生徒指導部	通年 通年 通年
2. 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営することで、文化祭、体育祭、協創コンテストなどの行事の内容の充実を図る。 ②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	生徒指導部 生徒指導部	通年 通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
	③限られた校内環境の中で、生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう取り組む。	生徒指導部	通年
IV協創教育の推進			
1. 「4つの力」(探究型学力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力) の育成	①「4つの力の育成」を評価するための「協創ルーブリック」を作成する。また、これを踏まえた「教科別ルーブリック」を作成し、評価を試みる。	協創教育部 教務部	4～7月
2. 「探究科」授業の充実	①地域に密着した身近な課題から生徒が4つの力を意識して解決策を模索し、思考の深化を図る授業に取り組む。	協創教育部	通年
3. 「GCP」(グローバル・コンピテンス・プログラム) の導入・促進	①本校教育目標を達成するための教科横断型の特色ある教育活動として、当面、英語科を中心としたGCPに取り組む。	協創教育部 英語科	通年
4. 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。 ②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	協創教育部 協創教育部	通年 通年
5. ICTを活用した教育の推進	①ICTを活用した授業づくりや協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	協創教育部	通年
V教育力の向上			
1. 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「バディ制度」を導入し、先輩教員から授業や校務などについて指導、助言する。 ②毎月1回水曜日の放課後を研修日とする。当日は短縮授業とし、研修年間計画に基づいて実施する。研修は、経験年数別、マネジメント、授業力向上等、多様な研修を実施する。	教務部 教務部	通年 通年
2. 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する。	教務部	11月
3. 授業評価の実施	①日々の授業について、外部評価者や生徒による評価を行い、得られた評価と助言に基づき授業力の向上を図る。	教務部	通年
4. 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックを作成し、これに基づいて評価をする。	教務部	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
VI生徒募集の充実 1. 戦略的広報活動の実施	②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。	教務部	各学期末
	①オープンスクール、地域別相談会、トワイライト説明会等を軸として広報活動を実施する。	企画広報部	5月～11月
	②ウェブ(ホーム)ページをこれまで以上に充実させる。	企画広報部	通年
VII学校組織力の強化 1. 組織体制の充実	③小・中学校や塾の訪問は、事前準備を入念にすると共に、在校生の有無や親疎関係などに基づき、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	企画広報部	5月～11月
	①中期事業計画に基づいた年度事業計画を策定し、校務運営の円滑化を図る。また、その振り返りを全教員で共有する。	各部	通年
	②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成する。	管理職、教務部	通年
	③「協創の教育2021」及びスクールポリシーを策定し、学校内外に発信する。	管理職、教務部	4月
	④教職員研修及び中高一貫教育の充実を図るため、これらを主担する主任を置く。	教務部	通年
2. 人事評価の実施	①適正な評価に基いて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として2021度から人事評価制度を導入する。4月から9月までは準備期間とし、10月から試行として運用開始する。	管理職	通年
VIII事務室の機能強化 1. 経営面の機能強化	①事務室における企画面の機能強化を図り、校長の学校経営を支援するため、事務室組織の見直しを行う。	事務室	通年
	2. 財務面の機能強化	①財務諸表等により財政及び経営状況を的確に把握し、収支バランスの改善を図るとともに、施設等・設備の適切な管理を行う観点から、施設・設備中長期保全計画を策定する。	事務室
VIIIその他 1. 創立80周年記念行事の準備	①本年学校創立80周年を迎えるにあたり、記念行事の立案・準備をする。	庶務部	4月～10月